

# 第1回佐賀市障がい者プラン等策定委員会

日時：2月1日（水）19：00～

場所：本庁4階大会議室

## 1 開 会

（省略）

## 2 委嘱状交付

（省略）

## 3 副市長あいさつ

（省略）

## 4 設置要綱の説明

（省略）

## 5 委員長・副委員長選任

委員長に江口委員、副委員長に福島委員

## 6 議 事

### （1）佐賀市障がい者プラン等の策定について 【資料1】

委 員：2点ほど質問したい。1点目に、障がい者プランについて、国や県の計画が基本になるとのことだが、ダイジェスト版があれば提示いただきたい。

2点目が、障がい者プランの策定スケジュールについて、アンケートを実施することだが、対象者等含めて複数あるが、今回何人くらいに配布予定か。また、今までは何人に配布してきたのか。

事務局：国や県の計画のダイジェスト版については、国の計画は今パブリックコメントが終わったばかりでまだできていない段階。前回の計画のダイジェスト版であれば、送付できる。また、県の計画についても、前回の計画であれば送付可能。

2点目のアンケートの対象者については、前は18歳以上の障がい者本人には1,000人、同居者を対象にしたものを1,000人、障がい児の保護者に100人、難病患者に50人、計2,150人に配布した。

委 員：根本的な意見で恐縮だが、この策定委員会の目的等について今一度お伺いしたい。

事務局：今後、計画案を提示していくが、その計画案について、取り入れるべき視点や修正が必要な箇所等ご意見をいただき、より良い計画を完成させていく場となる。今回はアンケート調査につ

いてご意見いただければと思う。

委員：障がい者プランの策定には直接関係ないかもしれないが、介護保険の制度では、寝たきりの方に対する支援として訪問入浴というものがある。県内の事業所は 11 ヶ所あるらしいが、介護保険の制度のため、特定疾病になれば介護保険の制度が使えるが、特定疾病ではない 65 歳以下の対象外の方に対しては支援がないかと思うので、もし既存の制度で支援があれば教えてほしい。

事務局：訪問入浴については、市町村事業として実施しており、3カ所ほど提供している事業所がある。浴槽が付いた移動車があり、訪問して車の中でお風呂に入れることになっていたと思う。ただ、かなり重度の障がいでも本人も家族の支援があっても入浴が非常に大変という方が対象。

委員：問い合わせがあり、お答えできればと思ったので質問させていただいた。

委員：全体の進行として、プラン・計画について、大項目から中項目、具体的な取り組みまでここで検討していくと思うが、これをもとに佐賀市の障がい福祉施策を進めていくという認識でよいか。

事務局：障がい福祉課だけではなく、市全体でこの計画に基づき推進していくことになる。

委員：この計画に書かれたことがどの程度実際に実施されるか、取り組まれるものなのか気になることである。それによって私たち委員がどれほどの重さを持って発言すべきかが変わるような気がする。市全体として、ここに書いてあることを、6年間取り組むことになるという認識でよいか。

事務局：はい。

委員：2023年までの計画がどのように動いているのか等も教えていただきながら、2024年度からの実際に使える計画を作っていくという事で、各委員からのご意見は非常に重要になる。絵に描いた餅にならないように。市が目指すことについて、現在のプランの 23~25 ページ、特に 25 ページには具体的な事項が書いてあるが、これらを総括的に進めていきたい。

## (2) アンケート (案) について 【資料 2】

### 【事務局からの説明】

- ・資料 2-②問 13：年齢区分を間違っているため、資料 2-①と合わせる。
- ・資料 2-③問 7：回答の「その他」を「週末・休日・長期休業中のみ介助」へ変更

委員：人は困っていることに焦点を当てやすいので、困っていることを聞かれると困っている探しをするのではないかと思う。一方望むことを聞かれても望みの方に焦点当てづらいものだと感じている。なので、望むことの具体度をもう少し上げられると良いのでは。

また、役に立ちたい思いが非常に強くて、どのように役に立ちたいか、また、どのような事が出来るかといった事を質問の中で伺えればと思う。障がい者だからといって、いつも助けられる側だけではなく、助ける側にも立てる。実際に生活の中で人の助けをいただくところはたくさんあるのだが、どうやって力が発揮できるか、当事者たちの活躍を後押しできるかといったところを考えていただければ。

また、一般の方へのアンケートはとらないのか。

委員：アンケートについては、どのようなものを作っていくかというときの現状把握にやはり焦点が当てられているのかなと思う。今支援が現に必要な方を把握していくところかと思う。指摘いただいた内容で、望み、役に立つとかそういった事は質問項目でチェックするのが難しくなるので、例えば自由記述欄等で記入いただくような形ができればと思う。

事務局：ご指摘いただいた、役に立つというところは非常に理解できる。市がどのような施策を推進していくかを考えると、ニーズをとらえること、現状把握がやはり大事なので、自由記述の欄の書き方等で工夫できないか検討させていただく。

また、一般の方へのアンケートについて、総合福祉計画の策定の際に一般の方にアンケートを行うが、障がいに関するアンケート項目もあるため、その結果を参考にしたい。

委員：支援者（事業所）に対してアンケート調査を実施する予定は？

事務局：事業所に対してヒアリング調査を行う。

委員：前回の有効回収率が約 50%。低い所では 30%の場合もあるが、できれば7割程度回収できるとよい。回収率向上のための方策など、検討されているところはあるか。

事務局：佐賀市の回収率は非常に高い方だと聞いている。また、抽出法については障がいをお持ちの方を対象にする場合は非常にデリケートな部分になる。対象の方によっては、医療機関やサービス事業者を通じて配布しているケースもある。

委員：回収率の並びの中で、30%や 83.3%など、その差は今説明いただいた理由によるものか。

事務局：佐賀市では障がい児については盲学校やろう学校に協力いただいて、手渡しすることで、ほとんど返ってきている状況。また、肢体不自由の方については数が多いため郵送になっていて、そこは若干回収率が低いのかもかもしれない。

委員：それぞれに対象を分けた4つのアンケートの中で、回収率をどこを基準にすると高いというのが難しいなと思った。ただ、現状に満足することなく、今後の計画策定のよりよい材料とするために、取り組んでほしい。

委員：回収率が高くなるよう頑張っていたいただければ。

委員：2-②の対象者のみ、差別や偏見の実感の設問がない理由について今一度伺いたい。

事務局：対象者に対する差別や偏見がないですかというのを介助者の方にも入れてしまっていた。重複になるので対象者のみにした。

委員：差別や偏見について、介助者から声が上がってくる想定は無いのか。

事務局：2-①と2-②は同じ世帯に送るので、そのためかと。障がいのあるご本人と共に考えながら書くという事で、2-②からは外した。

委員：在宅の方のみ対象という事だったが、障がい者プランは在宅の方のみの計画か？そのことを疑問に思った。重症心身障がい者の施設においては、本人が記入することは難しいだろうが、本人も家族も意見というのは例え入所しててもあるのかなと思う。この障がい者計画が在宅の方のみが対象という事であれば分かるのだが。

事務局：前回も同様の意見を頂いたかと思うが、災害時など、既に入所している方と在宅の方では困りごとの内容など異なると思う。入所している方でも、違う観点からの困りごとというのがあるかとは思いますが。

委員：これと同じ質問でなくてもいいかと思う。例えば、入所してて、家に帰る時に使える交通手段など。入所するとサービスがいろいろ制限されるので。本人や家族もニーズは持っているのかなと思う。同じベースではないアンケートでも良いかとは思いますが。

委員：入所先が終の住まいではない、地域の中の在宅であるという考え方が今は普遍的になってきているので、少し考える必要があるのではと思う。

委員：アンケート対象が施設の利用者を除くと聞いたとき、私も少し疑問に思った。入所者に送ったとしても、家族や介助者が記入してくれると思う。今回は在宅の方だけでもいいかと思うが、計画において施設も地域という考え方ということであれば、今後はそれも含めたアンケートの設計をしてもいいのかなと思った。

事務局：入所施設にヒアリング調査という形で対応できればと思う。

委員：重度知的障がいの方は、本人が答えるのは難しいと思う。言葉尻の話で申し訳ないが、資料2-①の問15で文章の末尾を「してみたい」等の表現にした方がよいのではないかと。問17も「週に何回」より「月に何回」の方がいいのでは？問37の「働きたい」、「働きたくない」の二択。だったら、「はい」、「いいえ」で良いのでは。差別や偏見について、本人に自覚がない場合はどうすればいいのか。問47の以前との比較について、以前も感じたことが無い人は答えようがないとか、問49は差別を受けている人に問う設問ではないのではと思った。

委員：差別の実感について、「わからない」の方がいいのではというご指摘か。

委員：本人は分からないかもしれないが、家族は感じているかもしれないので、それを把握できるような内容にできれば。

事務局：表紙の記入の仕方に入れているが、原則本人としているが、難しい場合、「介助者が本人の気持ちを汲み取って」との記入や、「答えづらい設問は空欄で」と記入しているので、その箇所については空欄等でも良いかと思う。後で文言等ご指摘いただいた箇所の内容を詳しくもう一度伺いたい。

委員：先程の「介助者が本人の気持ちを汲み取って」との記入や、「答えづらい設問は空欄で」との記入は網かけをするなど強調された方がよいかも。アンケートについてほかに特にご意見はないか。なければその他、全体を通じて皆様が感じられたことなど、自己紹介も踏まえながらお伝えいただければ。

委員：地域共生という部分で、理想的な部分と現実的な部分があるかなと感じている。未だに地域によっては介護保険が優先だったりする。40歳の特定疾患がある方は介護保険がという現状。今後とも皆さんと頑張っていきたい。

委員：皆さんの意見を聞いて参考になる部分が多々あったが、今でも病院の中で暮らしている方もたくさんいて、その中でも地域で暮らしたいと思っている方も多くいる。そういった方が地域生活するためにどのようなサービスが求められるか等考えていきたい。

委員：アンケートについて等、勉強させていただいている。今後、いろいろな事を策定するかと思うが、このプランの中にはなかったが、今後障がいを持つ方の高齢化の問題もあり、取り組む必要がある。入所施設にも在所歴 60 年という方もいて看取りとなることもある。もう少し介護保険との効果的な連携というか、在宅、施設関係なく障がいのある方の高齢化対策をどうするか等、今後は取り入れていただければ。

委員：このプランを真剣につくるというか、そのために来たのかと思う。時に空気を読めない発言もするかもしれないが、何のためにこのプランを作るのかを考え発言していきたい。

委員：初めて委員として参加した。福祉についてもほぼ初めて。支援の手厚さなど感じているが、意見等伝えながら、プランが絵に描いた餅にならないよう、尽力していく。

委員：これから 10 年 20 年先利用者がどうやって生きていくのか、まわりがどうやって支えていくのか等、思う所があって参加した。

委員：様々な相談をいただく。きめ細かいサービスの提供ということで取り組んでおり、そういった

現場の声をたくさん届け、施策に繋げて、反映していければと思う。

委員：佐賀市で良かったと思えるようなプランを作れればと思う。

委員：ピアサポート専門員として仕事をしている。ピアサポートの中心には人と人との支え合いがあり、私自身もそのおかげで元気になってきた。出来る限り尽力していく。

委員：当事者の親として、本人たちは楽しく過ごしているが、家族は振り回されている。本人たちだけでなく家族や支援者にとってもいいプランになるよう努めていきたい。

委員：佐賀市がどんなまちにしたいのか、佐賀市に来てよかった、佐賀市に住みたいというようなまちにしたいのかということがなければならぬと思う。いくつかのグループに分けてアンケート結果をまとめられると思うが、例えばどのようにまとめられるのか。少数意見を大切にしてほしい。

委員：プランの作成に長く関わらせていただいている。熱心な委員の皆様に参加いただいていると感じており、今後は楽しみ。私が関わっているのは知的障がいや自閉症の重度の方だが、身近な方や関わっている方を思い浮かべながらプランを作っていく事が大事だと思う。遠慮せずにご意見をいただくことが大事かと。皆様とともにいいプランが出来るよう、私も意見を伝えていきたい。

委員：参加いただいた皆様には一度は発言してほしい。障がいがあっても楽しく生きられるような、生きやすい佐賀市になれば。皆様の力をいただきながら、プランを作っていきたい。

## 7 その他

(今後のスケジュールについて説明)

## 8 閉会